



**第33回
全国研究集会
in 徳島**

認知症の人と家族にとって暮らしやすい街を考える

日時
2017年
11月5日(日) 9:30-16:00

会場 鳴門市文化会館 ホール 定員1,400名
鳴門市撫養町南浜字東浜24番地7

講演
「認知症と笑い」
落語で認知症を予防する!?
講師：落語家 笑福亭學光氏

事例発表
「徳島で考える、
認知症の人も家族も暮らしやすい街とは」
シンポジスト：宮腰 奏子氏 (厚生労働省老健局認知症施策推進室長)
大森 隆史氏 (徳島県基幹型認知症疾患医療センター長)
村橋 文彦氏 (鳴門市長寿介護課 保健師)
瀬川 正昭氏 (NPO法人山の基創研たち 理事長)
住友 達也氏 (株式会社とら丸 代表取締役)
花保 ふみ代氏 (認知症の人と家族の会 理事) 他

シンポジウム

参加費 一般 2,000円 学生 1,000円 (資料代含む)

公益社団法人 認知症の人と家族の会 担当：徳島県支部
お問い合わせ TEL:088-678-8020
E-Mail: alz-tokushima@wit.ocn.ne.jp

来る平成29年11月5日に鳴門市文化会館にて第33回認知症と家族の会全国研究集会在開催されます。研究集会では落語家の笑福亭學光氏が、「認知症と笑い」落語で認知症を予防する」をテーマとした基調講演を行います。また、昨今の超少子高齢化社会における認知症高齢者の増加に対して、地域で認知症の人とその家族を支えていくために、どういったことが考えられるのかといったシンポジウムも開催されます。尚、この研究集会は会員、資格問わず、どなたでも参加できますので、お時間のある方はお誘いあわせのうえ、ご参加ください。

オレんじ通信



認知症
ともに暮らそう
この街で

第33回認知症の人と家族の会

全国研究集会 in 徳島大会



大麻町ジングルベルマラソンで啓発
昨年12月23日に開催された大麻町ジングルベルマラソン。たくさんの方々が参加するこのイベントに、推進員とキャラバンメイトもお邪魔させてもらい、認知症支援についての啓発活動をさせていただきました。
今回は、認知症支援のカラーであるオレんじに身を包み、参加☆沿道で認知症の人と家族の会のリーフレットや啓発用のティッシュを配りました。また、マラソン組は認知症支援のマスコットキャラクター「ロバ隊長」に扮しマラソンコースを完走！参加者の方々、応援されていた方々に少しでも目にして頂き、認知症やその支援に興味を持ってもらいたいという思いで走りました。足を止めて私達の話に耳を傾けてくださった皆様、ありがとうございました。認知症の方が地域で安心して暮らせるよう支援の輪が広がるようこれからも啓発活動を行っていききたいと思えます。

おおあさ
ジングルベル
マラソン

イベント
シリーズ
vol.2



鳴門市認知症の啓発に 関する川柳について



鳴門市では、認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるやさしい街づくりを目指しています。昨年9月に、認知症の啓発活動の一環として、認知症への理解を深めることを目的に川柳を募集しました。内容としては、『認知症』に関する日常のエピソード、思わず微笑んでしまったことや認知症の方ご本人の発言、介護の体験・心得等としました。応募者数80名、応募総数166点と多数のご応募をいただきました。応募いただいた全ての作品は、キョーエイ鳴門駅前店の一部スペースをお借りして、9月21日から1週間ほど展示させていただきました。応募のあった川柳の中から優秀作品を推進員が選定し、今後の認知症啓発に活用させて頂くこととなりました。

平成28年度認知症に関する川柳優秀作

人の和で 認知症に 強い街

(鳴門町 熊谷 信一様)

あなたただ一れ 微笑む母の 手をさする

(撫養町 いくちちゃん様)

白髪の 夢見る乙女 相手する

(北灘町 野原のうさぎ様)

認知症コラム

「どうして貴方は家に帰るのですか？」そう聞かれて、理由を明確に答えることはできませんか。「寝に帰るため」「ご飯を食べるから」「こどもの世話があるから」「妻に怒られるから」様々な答えが返ってきませんが、どれもスッキリしません。家に帰るのに理由が必要なのですか？ しいて言えば「家だから帰る」のではないのでしょうか。しかし、認知症の人が「家に帰りたい」と言えば「帰宅願望」と言われます。「問題行動」という人までいます。果たして「家に帰りたい」と思う気持ちは問題なのでしょうか。認知症になると、今までできていたことができなくなったり、大事なことを忘れてしまったり、本人はとても不安な気持ちになります。その不安な気持ちの中で落ち着ける場所である「家」に帰りたいと思う気持ちを、「問題行動」「周辺症状」という言葉だけで済ましてしまうことは、認知症の人そのものを否定してしまう気がしてなりません。認知症の人と、そうでない人が思う気持ちは変わらないのです。認知症の人が少しでも住みやすい社会になるよう、一人でも多くの人が認知症を理解し、支えられるようになることを願っています。

もの忘れ相談について

心療内科等への受診にためらいがある方等に気軽に相談してもらおうことを目的として平成25年3月よりもの忘れに関する無料相談窓口を開設しています。認知症サポート医や認知症の人と家族の会の相談員が対応しています。ご本人やご家族の方、担当ケアマネジャーや民生委員、住民の方などどなたでも利用は可能となっております。相談に関するお問い合わせは鳴門市基幹型地域包括支援センター（電話615・1417）までご連絡ください。

編集後記

オレンジ通信も今回で第2号となりましたが、1年ぶりということで編集作業が滞っていい申し訳ない気持ちでいっぱいです。昨年は啓発活動に力を入れ、少しずつ支援者の輪が広がってきているのを感じています。今年には啓発活動のほか、医療介護の連携や若年性認知症の人やその家族の方への支援についても重点的に取り組んでいきたいと思えます。何事もコツコツと、継続的に良い物を少しずつ形に。